

姫路の城下町

姫路は古代には国府があり、中世にも守護屋敷などが置かれた地である。現在の姫路の城下町は、その枠組みを一部残しつつ、播磨に封じられた池田輝政が、姫路城と共に新たに形成した町である。輝政は、姫山と鷲山にわたって築かれた姫路城の山麓を囲むように内堀、その周囲に城下町を配置し、その町を中堀と外堀で囲む総構の町を形成した。そして中堀の内に、上・中級武家屋敷や播磨国総社、外堀の内に、下級武家屋敷や寺町のほか街道に沿って町屋を配置する町割をおこなった。

I 車門

車門は、姫路城中曲輪に設けられた11箇所の中のうち、西南に位置する。普段は使用されなかったが、西に流れる船場川を渡ると、岡山方面への西国街道に直結する主要な場所にあたる。このため、内門、中門、外門と船場川へ降りる車道門の4つの門があり、内枳形と外枳形を組み合わせた嚴重な二重枳形構造となっていた。建物は残っていないが、内門は櫓門、中門と外門は高麗門、車道門は高麗門か埋門で外門には出番所が設けられていた。

姫路市では、平成7年度に内門西側中堀沿いの石垣解体修理と発掘調査、平成24年度・令和元年度には、内門東側にある合坂（石階段）の解体修理、令和2年度には内門の南側石垣の間詰石補充を実施した。



『大工源助俵 幾蔵図』に描かれた車門（『幾蔵図冊』）



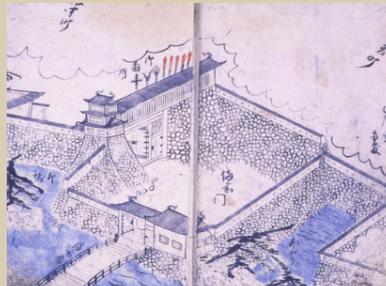
発掘調査で見つかった門の礎石



石垣修理の様子

II 備前門

姫路城外曲輪の南西に位置する門である。備前門橋とも呼ばれ、備前（岡山）方面へ向かう門であることがこの名前の由来となっている。文政3年（1830）酒井忠道が町名をとって福中門と改めた。西国街道の城内への西玄関口であり、参勤交代の大名行列も通過する場所だったため、姫路城の城門の中でも特に嚴重に守りが固められていた。江戸時代の文献や絵図によると、城外から橋を渡り、外門をくぐって通路を東に進み、北に折れて内門を通り城内（外曲輪）に入る枳形構造で、内門の西側には櫓があった。平成28年度の発掘調査で、埋まっていた枳形南面の石垣の一部を確認した。



『大工源助俵 幾蔵図』に描かれた備前門（『幾蔵図冊』）



備前門跡発掘の様子



備前門跡石垣(南から)



高麗門

二本の主柱の上に切妻屋根をのせ、主柱内側の控柱にも屋根を付けた単層の門。



櫓門

門の上に横長の多間櫓をのせた二ないし三層の門。

姫路市立城郭研究室

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-258日本城郭研究センター内
TEL (079)289-4877 / FAX (079)289-4890
URL <http://www.city.himeji.lg.jp/jyokakuen/>

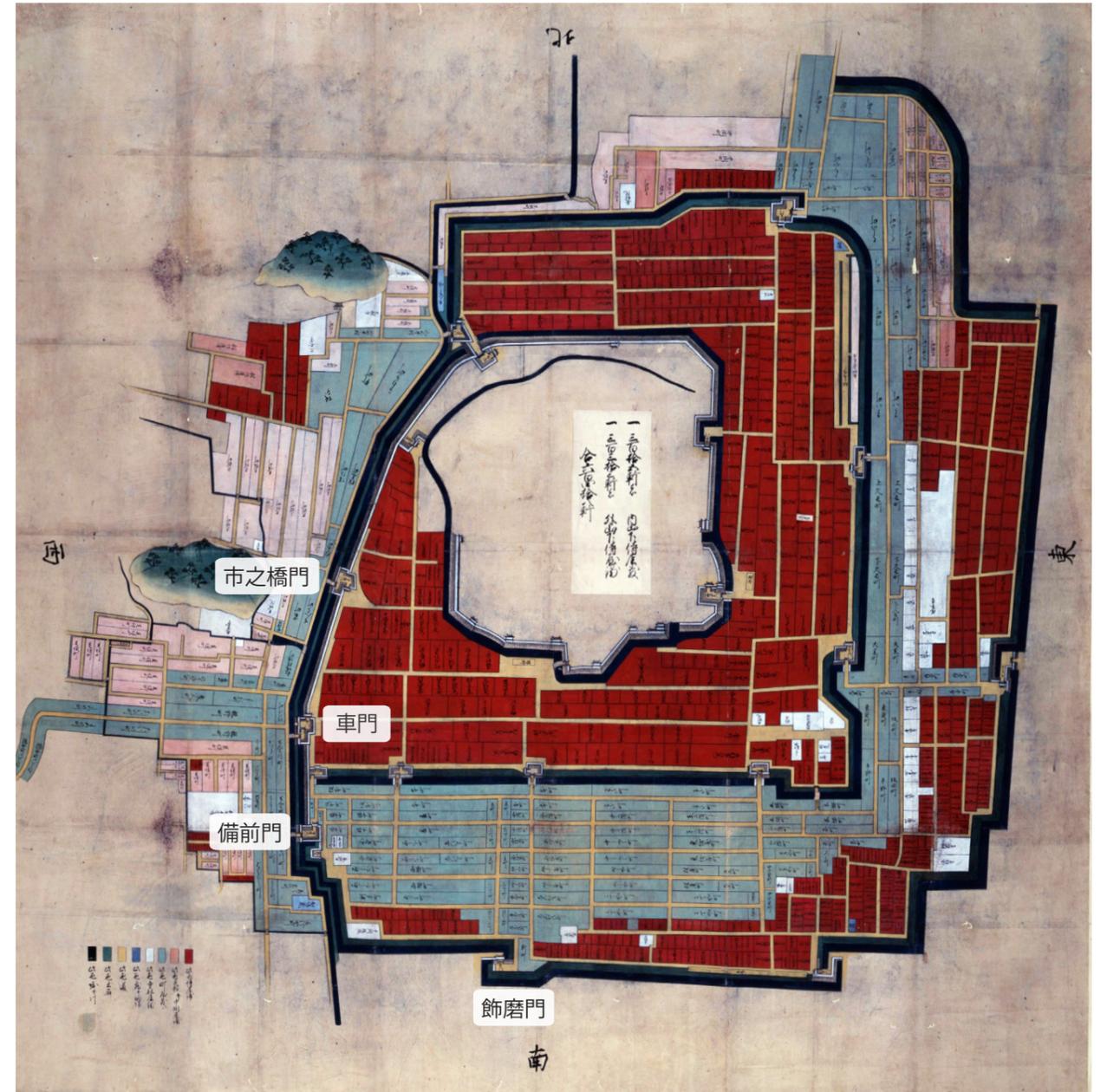
姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952
URL <http://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/>

令和4年(2022年)11月19日発行

表紙の城下町絵図（「姫路御城廻侍屋鋪新絵図」17世紀中頃）は姫路市立城郭研究室所蔵。『幾蔵図冊』（姫路市立城内図書館所蔵）から、車門・備前門跡の図を一部加工。発掘状況の写真は姫路市埋蔵文化財センター所蔵。その他写真は城郭研究室所蔵。

姫路城城下町を巡る（西部）



「姫路御城廻侍屋鋪新絵図」（17世紀中頃）

姫路市立城郭研究室/姫路市埋蔵文化財センター

① 好古園

好古園は平成4年(1992)に開園した日本庭園で、江戸時代には北部が元和4年(1618)に本多忠政が造営した西御屋敷、南部は武家屋敷となっていた。発掘調査で、西御屋敷や武家屋敷を区画する石垣や築地塀基礎、池や井戸などが見つかった。

※現在、遺構の見学はできません。



調査地の全景と発見された築地塀の基礎

② 舟入川

元和7年(1621)本多忠政によって改修された船場川と合流する。船場川を上下する高瀬船の荷物の荷揚場として設けられたといわれており、船だまりとしても利用された。近隣には、もともと船場川の川岸にあって、高瀬船をつなぐのに利用された船つなぎ石もある。



船だまりと船つなぎ石

③ 船場本徳寺

真宗大谷派の寺院で、本多忠政によって現在地に建立された。寺内には、江戸時代に建てられた市指定文化財の本堂・表門・鐘楼・大玄関がある。また勤王志士の墓碑、西南戦争の記念碑、ドイツ兵捕虜が作成した古城を模した噴水も残されている。



④ 大蔵前公園

江戸時代、この付近一帯には姫路藩の牢舎や刑場が設けられていた。元治元年(1864)の甲子の獄の際には、捕えられた攘夷派の姫路藩士が収監され、河合惣兵衛ら8名が自刃・処刑された場である。現在、「勤王志士終焉之地碑」が建てられている。



⑤ 十二所神社・お菊神社

十二所神社は延長6年(929)に創建されたとされる。祭神は少彦明神。末社には、播州皿屋敷で有名なお菊を祀るお菊神社がある。境内には、「菊嬢由縁ノ松」やお菊を縛った縄や松の木の断片、井戸の釣瓶などの品々もあったが、昭和20年7月姫路空襲で焼失した。



⑥ 外堀の石垣

外堀は総延長5.23kmあり、北側を除いて城下町全域を囲んでいた。忍町では、外堀石垣の屈曲部が見つかった。石垣の傾斜は65度前後で高さ約3m分が確認されている。石材は凝灰岩を主としながら花崗岩も含み、一部には矢穴の痕跡もみられた。

※現在、遺構の見学はできません。



発掘調査で見つかった石垣

